

グループと私

第43回学術大会 日本集団精神療法学会

大会長 林公輔 [慶應義塾大学環境情報学部]
事務局長 高橋馨 [杉並区児童相談所設置準備課]

慶應義塾大学三田キャンパス
2026.3.21,22

HPはこちら



The 43rd Annual Conference of the Japanese Association for Group Psychotherapy

大会事務局長からのご挨拶

皆様のお手元に大会プログラムをお届けすることができ、心からほっとしています。
今回のテーマは「グループと私」です。皆さんはこのテーマに、どのようなことを連想されるでしょう。今大会は例年行なっている一般演題や体験グループ、新たなテーマのシンポジウムやワークショップの他、大会として様々なグループを用意しています。参加される皆さんが色々なグループ体験を通じて、「グループと私」に想いを馳せ、感じ、考えられるような仕組みです。このような仕組みに戸惑う方もおられるかも知れません。願わくば、多くの方がそれぞれの仕方で大会二日間の体験を味わい楽しんでいただければ、これに勝る喜びはありません。

高橋 馨



Contents

大会のご案内

- 会期・参加費
- 参加申し込み
- プログラム構成
- 参加の注意事項
- 守秘義務と個人情報

2

会場のご案内

- キャンパスマップ
- 交通アクセス

3-4

その他のご案内

- 昼食について
- 保育室について
- 懇親会について
- 教育研修委員会から

5

プログラム

- プログラム表
- プログラム詳細

6-18

運営委員会組織 協賛・後援

- special thanks to

19

大会の基本コンセプト

第43回大会では「グループと私」というテーマのもと、みなさんが集団や自分自身（そのほかなんでも）について考えるための場を用意したいと考えました。もちろん全てのプログラムがそのための場になると思いますが、今回は、第37回大会（古賀恵理子大会長）のプログラムを参考にしつつ、グループやる（もしくはグループに興味がある）人の集まりなんだからグループで考えよう！という想いのもと、以下のようなグループを企画しました。どんなグループになるかはみなさん次第です。積極的に（積極的になくてもぜひ）ご参加ください。大会の基本方針として、誰もがいつでも発言できるよう、これらのグループではマイクを使用しない予定ですが、各グループの運営はそれぞれのグループの「コンダクターズ」に委ねたいと思います。

《コミュニティ・ミーティング》

2日間の大会全体をひとつのコミュニティと見立て、所属しているメンバー全員が集まり、意見や気持ちを交換したり大会を振り返ったりするための場です。コンダクター、コ・コンダクターは事務局メンバーが務めます。事前申し込みは不要です。

《リフレクション・グループ》

大会での体験をコミュニティ・ミーティングよりも少人数で振り返るための場です。コンダクター、コ・コンダクターは基本的に運営委員が担いますが（全員ではありません）、様々な職種や職域などの組み合わせを考慮して何人か会員にもお願いしました。事前申し込み制ですが、当日参加の方も受け付けます。2日間連続での参加をお勧めしますが（メンバーは固定です）、どちらか1日しか参加できない方でも、どうぞご参加ください。

《イブニング/モーニング・セッション（言語・アクション）》

大グループによる集団精神療法体験を提供することを目的に、言語とアクションのグループを用意しました。どちらに参加するかは皆さんが決めてください。事前申し込みは不要です。直接会場にお越しください。当日何人集まるかはみなさん次第です。

大会のご案内

会期：2026年3月21日（土）～22（日）
会場：慶應義塾大学三田キャンパス
（〒108-8345東京都港区三田2-15-45）

参加費：

事前申し込み 締め切り：2026年1月31日	会員	9,000円
	非会員	10,000円
	学生	3,000円
当日申し込み	会員	10,000円
	非会員	11,000円
	学生	3,000円
懇親会	6,000円	

※学生（修士課程・博士課程前期含む）の方は、会員番号欄に学生番号をご入力ください。
※当日参加申し込みの場合は、学生証もご提示ください。

参加申し込み

大会に参加されるすべての方は参加申し込みが必要です。発表者、スーパーバイザー、司会などの役割を担われている方々も参加申し込みをお願いします。

《事前参加申し込み》

事前参加申し込み期間：

2025年12月15日～2026年1月31日（土）

・事前参加申し込みは、参加申し込みフォームよりお願いします。必要事項をご記入の上、参加したいプログラムを選択してください。参加申し込みの必要性の有無は、プログラム詳細を確認ください。

・申し込み後に返信されるメールに参加費の振込先が記載されています。期日までにご入金ください。入金確認後、申し込みが完了となります。ご入金後は、いかなる理由でも返金はできません。ご了承ください。

・事前参加申し込みを頂いた方には、入金確認後に抄録集のURLとパスワードをお送りします。

※今大会は抄録集の紙媒体での配布は行いません。
WEB上での閲覧のみと致します。ご注意ください。

《当日参加申し込み》

・当日参加の方は、受付（第1校舎1F玄関）へお越しください。

・参加申込書のご記入と参加費（現金のみ）のお支払いをお願いします。

・参加費はお釣りが出ないようにご用意ください。

申し込みフォーム

<https://ws.formzu.net/fgen/S2831093/?>



定員に空きのあるプログラムへの参加方法

- ・大会当日に参加定員に空きのあるプログラムは、総合受付に掲示します。開催するプログラムの当日に、各プログラムの会場で参加申し込みを受け付けます。

参加の注意事項

- ・大会参加中は、必ず名札をご着用ください。名札の裏面が参加証明書となります。
- ・名札/参加証明書、領収証の再発行は対応できません。

守秘義務と個人情報保護について

本大会では、発表者と参加者が安心して各プログラムにご参加いただくことを最優先に考えております。つきましては、守秘義務と個人情報保護に関する以下の点にご理解とご協力をお願いいたします。

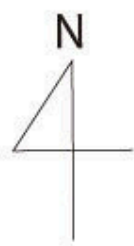
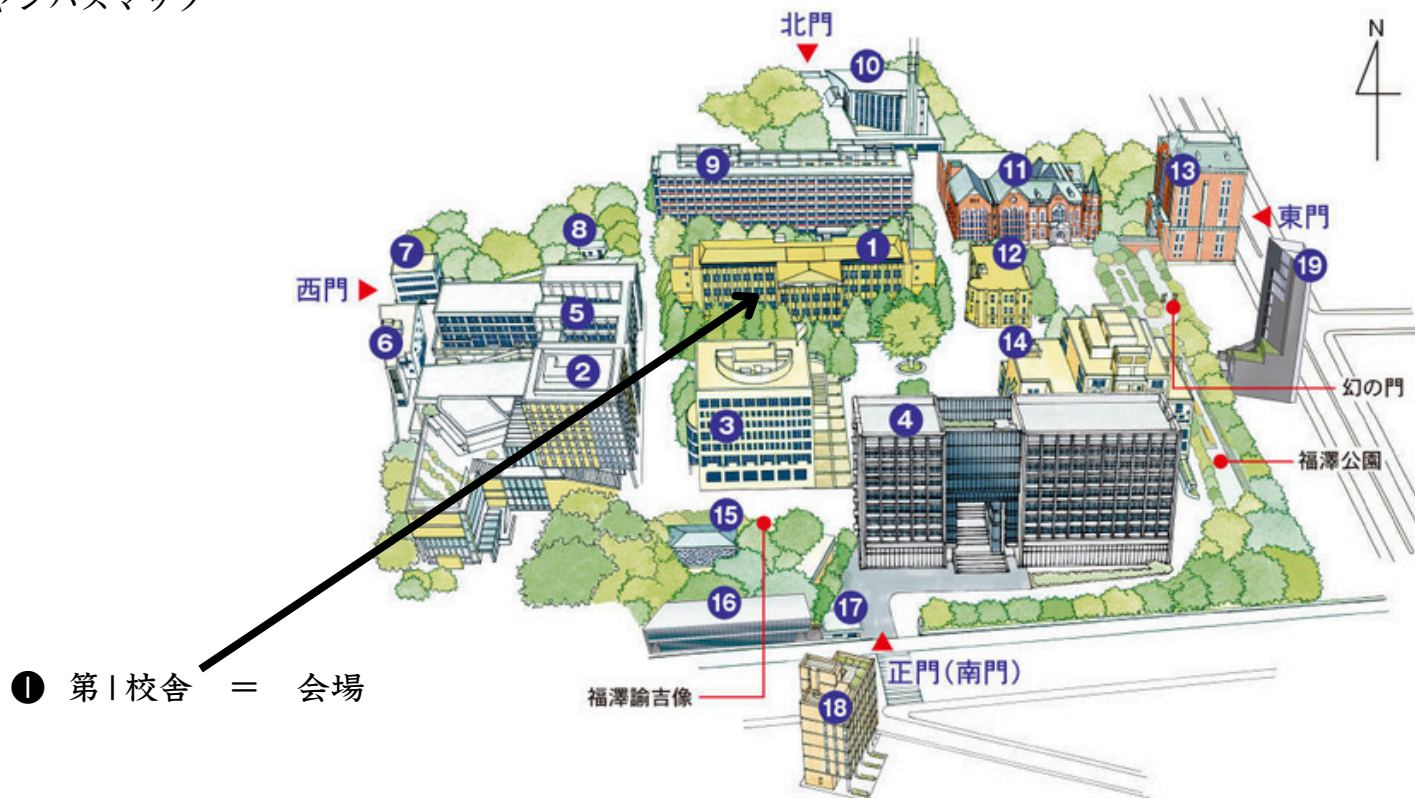
- ・学会会場外で事例内容について話をしたり、発表内容を無断で複製、転載、二次利用をしたりしないでください。
- ・発表内容の録音・録画、写真撮影、SNSへの投稿は固くお断りします。
- ・各発表で配布される回収資料については、発表者あるいは司会者の指示に従い、独自の判断で持ち帰らないようお願いいたします。

会場のご案内

慶應義塾大学 三田キャンパス 第1校舎 (101-147)

〒108-8345 東京都港区三田2-15-45

キャンパスマップ



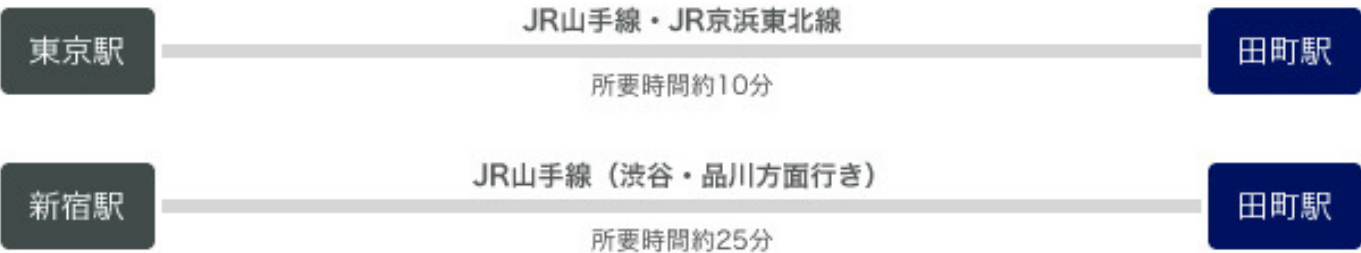
交通アクセス

田町駅 (JR山手線/JR京浜東北線) 徒歩8分

三田駅 (都営地下鉄浅草線/都営地下鉄三田線) 徒歩7分

赤羽橋駅 (都営地下鉄大江戸線) 徒歩8分

主要駅からのアクセス

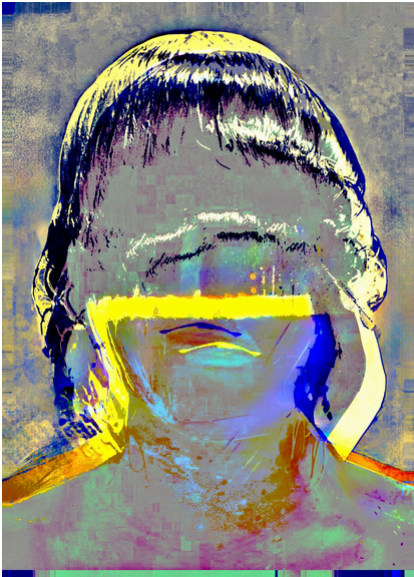


空港からのアクセス



会場について

- 大会期間中は第1校舎にクロークルームを用意いたします。利用時間は下記のとおりです。お預けの荷物は必ず当日の利用時間内にお引き取りください。貴重品はお預かりできませんのでご了承ください。
3月21日 9：00～19：00
3月22日 9：00～17：00
- キャンパス内は禁煙、飲食禁止です。



『FACE』（作/亀井理史）

- 第23回日本写真作家協会公募展 銀賞
- 第72回二科展写真部展 協賛会社賞

セルフポートレート作品。
自分の不確定な未来に対する不安や期待、揺れ動く感情が入り混じるその瞬間を生きる私の世界を示しています。

その他のご案内

昼食について

- 今回はお弁当の注文は受け付けておりません。
- 会場周辺には多くの飲食店がございます。そちらをご利用ください。
- 会場は飲食禁止ですが、昼食場所として研究室棟1階会議室A（定員36名）B（定員75名）を用意しました。席数に限りはございますが、どうぞご利用ください。
- ごみは各自、持ち帰りにご協力ください。

保育室について

- 大会期間中（2026年3月21日・22日）のみご利用になれます。
- 対象年齢は月齢3ヶ月～未就学児です。
- 利用希望の方は事前申し込みフォームの該当欄からお申し込みください。
- 申し込み締め切りは、2026年1月31日（事前参加申し込み締め切りと同日）です。当日の申し込みはできませんので、ご注意ください。

懇親会について

- 大会1日目終了後19時より、アリスアクアガーデン田町（港区芝5-34-7 ピアタ3階 田町駅及び三田駅から徒歩1分）にて懇親会を開催します。
- 久しぶりに楽しい時間を過ごしませんか？みなさまのご参加をお待ちしております。
- 定員250名です。事前参加申し込みフォームの該当欄からお申し込みください。
- 当日申し込みは定員に満たない場合のみ行います。
- 懇親会参加費は6,000円です。申し込みの方の参加証にはシールを貼付します。

その他

- 本大会は、日本精神神経学会精神科専門医資格認定更新、研修ポイントの取得対象学会です。単位認定をご希望の方は、当日会員カードをご持参の上、受付までお越しください。
- 本大会に関するお問い合わせは、大会事務局までメールでお願い致します。
大会事務局アドレス：43rd.tokyo@jagp1983.com

教育研修委員会 から

CGSミーティング

日時：2026年3月21日（土）17:50～18:35

会場：慶應義塾大学三田キャンパス

参加資格：学会認定のキャンディデイト、グループサイコセラピスト、スーパーバイザー

プレコングレス

日時：2026年3月20日（金）

会場：慶應義塾大学三田キャンパス

詳細については、教育研修委員会からの案内をお待ち下さい。

『排他』（作/亀井理史）

- 第28回日仏現代国際美術展 入選

かつてうつ病を患っていた私自身の経験を起点とした作品です。他者の視線が自分を脅かすように感じられ、「関わらないで」と拒むことでしか自己を守れなかった。その自己防衛の姿勢と、なお奥底に残るつながりへの微かな渴望。生き続けることの重さと、それでも消えない微かな意志の緊張を、身体表現として可視化しました。



プログラム表

第1日目 3月21日(土)

	1F 玄関	2F 121 教室	2F 123 教室	2F 122 教室	2F 124 教室	3F 133 教室	3F 132 教室	3F 134 教室
9:00 ~9:45	受付							
9:45 ~9:50		開 会 式						
9:50 ~10:30		大会長講演 大会長 林 公輔 司会 岡島 美朗						
10:40 ~11:25		コミュニティミーティング コンダクター 林 公輔 コ・コンダクター 高橋 馨 片上 絵梨子 ト部 裕介 岡田 靖子 野中 稔						
12:20 ~13:20		日本集団精神療法学会総会 議長 林 公輔						
13:30 ~16:00		大会特別企画 シンポジウムⅠ (グループ×アート) 司会 高橋 馨 松井 朋美 シンポジスト ●亀井 理史 (カメラマン/慶應義塾大学 環境情報学部3年) ●尾久 守侑 (精神科医・詩人/慶應義 塾大学医学部) ●津野 青嵐 (アーティスト・看護師)	書籍販売 /フリースペース	一般演題Ⅰ 「依存症・トラ ウマ・PTSD」 司会 齋藤 英二 田中 怜子 発表者 ①藤巻 加奈子 ②荻本 快 ③加藤 祐介	一般演題Ⅱ 「治療構造・治 療共同体・技法 ／チーム」 司会 徳丸 享 川合 裕子 発表者 ①森 智秀 古賀 禎也 堀川 公平 坂口 信貴 ②埜 雄士 浅田 護 ③正木 奈那 ④星野 大 金井 希叶 重田 理佐 林 公輔 西園 マーハ文 ⑤柴田 応介	自主ワークショップⅠ からだと集団精神 療法2 グループをくから だて聴く> ●鎌田 明日香 ●大橋 良枝 ●加藤 隆弘	自主ワークショップⅡ 性犯罪加害者に対 する集団精神療法 —集団を通して、 現代の私たちの心 的課題を考える— ●ジェイムス 朋子 ●犬塚 貴浩 ●篠山 義郎 ●田村 真二 ●安部 尚子 ●赤松 愛実	
16:15 ~16:45				リフレクション グループ①	リフレクション グループ②	リフレクション グループ③	リフレクション グループ④	リフレクション グループ⑤
16:55 ~17:40		イブニングセッション 言語 コンダクター 岩崎 壮登 古賀 恵理子 田辺 等				イブニングセッ ション アクション ファシリテーター 神宮 京子 伊東 瑠美 尾上 明代 倉石 聡子 高田 由利子		
17:50 ~18:35		CGS ミーティング						

1F 101 教室	1F 102 教室	1F 103 教室	1F 104 教室	1F 105 教室	1F 106 教室	1F 107 教室
基礎講座 ●古賀 恵里子 ●卜部 裕介	自主ワークショップⅢ 芸術の知による探求 様々な文脈からア ートベース・リサーチ の可能性を捉えるー ●高田 由利子 ●倉石 聡子 ●尾上 明代 ●神宮 京子 ●伊東 留美	体験グループ (会員限定) コンダクター 桜庭 拓郎 コ・コンダクター 吉野 比呂子	自主ワークショップⅣ 体験から学ぶSST ワ ークショップ ●佐藤 幸江 ●金山 正恵	自主ワークショップⅤ 集団精神療法における 権威について考える ●岡島 美朗 ●梶本 浩史 ●加藤 隆弘	大会企画ワークショップⅠ 相互支援委員会 災害とメンタルヘル スに関する相互支援 グループ ●安部 康代 ●高 富栄 ●高林 健示 ●長友 敦子 ●橋本 明宏 ●針生 江美 ●藤澤 美穂 ●藤 信子 ●山本 創	自主ワークショップⅥ 多職種チームで治療 構造を作るときにグ ループの視点をどう 活かすか ●宮城 崇史 ●片岡 圭美 ●加藤 祐介 ●田辺 等
リフレクション グループ⑥	リフレクション グループ⑦	リフレクション グループ⑧	リフレクション グループ⑨	リフレクション グループ⑩	リフレクション グループ⑪	リフレクション グループ⑫

第2日目 3月22日(日)

	1F 玄関	2F 121 教室	2F 123 教室	2F 122 教室	2F 124 教室	3F 133 教室	3F 132 教室		
9:00 ~9:15	受付								
9:15 ~10:00		モーニングセッション 言語 コンダクター 関 百合 コ・コンダクター 鈴木 純一	書籍販売 /フリースペース				モーニングセッション アクション ディレクター 藤堂信枝 スタッフ 富田 俊之 長谷川 真紀 藤堂 宗継		
10:15 ~12:45		大会特別企画 シンポジウムⅡ (グループ×エビデンス) 司会 松本 佳子 衛藤 暢明 シンポジスト ●新村 秀人 (大正大学 臨床心理学部) ●藤澤 大介 (国立がん研究センター がん対策研究所) ●加藤 隆弘 (北海道大学 精神医学教室)		一般演題Ⅲ 「児童・思春期 ・発達支援／教育 領域」 司会 渡部 京太 山野上 典子 発表者 ①菊池 清美 ②野島 一彦 ③浦岡 祐奈	一般演題Ⅳ 「統合失調症・ 長期入院治療／精 神障害支援」 司会 相田 信男 式守 晴子 発表者 ①水上 雅敏 ②浅田 護 ③片岡 圭美	大会企画 ワークショップⅡ こうえん ―出入り自由の体験グ ループ― ●野中 稔 ●藤澤 希美 ●佐藤 裕宗	自主ワークショップⅡ グループで職員 を支援する 児童福祉施設で のメンタライジ ング、治療共同 体、ワークディ スカッション ●西村 馨 ●宮城 崇史 ●山村 真 ●大橋 良枝		
12:45 ~13:45									
13:45 ~14:15					リフレクション グループ①	リフレクション グループ②	リフレクション グループ③	リフレクション グループ④	
14:30 ~16:30		コミュニティミーティング コンダクター 林 公輔 コ・コンダクター 高橋 馨 片上 絵梨子 ト部 裕介 岡田 靖子 野中 稔							
16:30 ~16:40		閉 会 式							

3F 134 教室	1F 101 教室	1F 102 教室	1F 103 教室	1F 104 教室	1F 105 教室	1F 106 教室	1F 107 教室
<div> <div> <p>自主ワークショップⅢ (会員限定) サイコドラマ入門 (3) サイコドラマをほとん ど経験した事のない集 団精神療法家のために</p> <p>●野本 益代 ●前田 潤</p> </div> <div> <p>大会企画 ワークショップⅡ 倫理委員会 「改訂版「倫理綱領」を どう生かすかー私たちの 倫理”の明日を考えるー 」</p> <p>●菊地 寿奈美 ●武井 麻子 ●池田 望 ●小川 悠介 ●白柿 綾 ●松井 朋美 ●加藤 祐介 ●嶋田 博之 ●神宮 京子 ●埜 雄士 ●高橋 裕子</p> </div> <div> <p>事例検討 (会員限定) 特別支援学校における グループ ～高等部 (分教室) の おしゃべり広場～</p> <p>スーパーバイザー 高林 健示</p> <p>司会者 加藤 祐介</p> <p>発表者 川上 桜子</p> </div> <div> <p>初心者グループ コンダクター 高 富栄 コ・コンダクター 佐藤 幸江</p> </div> <div> <p>自主ワークショップⅣ 「学校〇グループ」と私 ——シナリオロール プレイによる体験的学 び——</p> <p>●梶本 浩史 ●大橋 良枝 ●高 玲児 ●菅 武史 ●滝谷 寿美 ●谷 麻衣子 ●長尾 直子 ●廣瀬 真理 ●松尾 真規子</p> </div> <div> <p>自主ワークショップⅤ メンタライジングに 基づく里親のための支 援グループ 「リフレクティブ・フ ォスタリング・プログ ラム」を体験し、考え る</p> <p>●木村 能成 ●那須 里絵</p> </div> <div> <p>自主ワークショップⅥ 小集団精神療法を基 礎から学ぶ会 力動的管理をめぐ って</p> <p>●塚瀬 将之 ●加本 有希 ●塚瀬 佳澄美 ●関 百合</p> </div> </div>							
リフレクション グループ⑤	リフレクション グループ⑥	リフレクション グループ⑦	リフレクション グループ⑧	リフレクション グループ⑨	リフレクション グループ⑩	リフレクション グループ⑪	リフレクション グループ⑫

【プログラム詳細】

第1日目 3月21日（土）

大会長講演		9:50~10:30	121
	定員：なし	参加資格：なし	申込：不要

大会長講演「グループと私」			
大会長：林公輔（慶應義塾大学環境情報学部） 司会：岡島美朗（自治医科大学付属さいたま医療センター）			
大会長プロフィール 福井医科大学（現福井大学）医学部医学科を卒業後、慶應義塾大学精神・神経科学教室に入局。慶應義塾大学病院、医療法人群馬会群馬病院等を経て、Internatinal School of Analytical Psychology Zurichに留学（2016年3月から2017年6月まで）。 2018年4月 学習院大学文学部心理学科准教授、 2023年4月 同教授。 2023年4月 サバティカルを取得しベルリンに滞在（2024年3月まで）。 2025年4月 慶應義塾大学環境情報学部教授、現在に至る。 2025年7月 信濃追分クリニック開業。			

コミュニティミーティング		10:40~11:25	121教室
	定員：なし	参加資格：なし	申込：不要

コミュニティミーティング			
コンダクター 林公輔（慶應義塾大学環境情報学部） コ・コンダクター 高橋馨（杉並区児童相談所設置準備課） 片上 絵梨子（共立女子大学） ト部 裕介（関東中央病院） 岡田 靖子（訪問看護ステーションてんとうむし） 野中 稔（MBK Wellness 株式会社）			
概要：2日間の大会全体をひとつのコミュニティと見立て、そこに所属しているメンバー全員が集まり、意見や気持ちを交換したり、大会を振り返ったりするための場です。コンダクター、コ・コンダクターは事務局メンバーが務めます。事前申し込みは不要です。			

日本集団精神療法学会総会		12:20~13:20	121教室
--------------	--	-------------	-------

大会特別企画		13:30~16:00	121教室
	定員：なし	参加資格：なし	申込：不要

シンポジウムⅠ（グループ×アート）			
司会：高橋 馨（杉並区児童相談所設置準備課） 松井朋美（特定医療法人群馬会群馬病院） シンポジスト：亀井理史（カメラマン/慶應義塾大学環境情報学部3年） 尾久守侑（精神科医・詩人/慶應義塾大学医学部） 津野青嵐（アーティスト・看護師）			
概要：本シンポジウムでは集団精神療法を体験した経験のあるアーティストを迎え、芸術表現と心理療法の接点について検討することを目的にしています。アーティストが自身の体験を通して語る「表現と療法の出会い」に触れることによって、参加者がこれまでにない新たな視点から集団精神療法について考える機会になることを期待しています。			

大会企画 基礎講座		13:30~16:00	101教室
	定員：30名	参加資格：なし	申込：要

基礎講座			
古賀恵里子（大阪経済大学人間科学部） ト部裕介（関東中央病院）			

概要：基礎講座は、集団精神療法に興味を抱き始めた人、自分が属する組織等でこれから集団精神療法のグループを始めよう、あるいは始めたいと思っている人、そして、グループを始めてみたものの、今後どのように継続していけば良いものか思案している人を対象とします。
グループを用いたアプローチは、実際には、医療・教育・司法等のさまざまな領域で活用されていますが、「集団精神療法」と名前がつくと特別な知識や技術を求められる難しい代物のように感じられるのではないのでしょうか。確かに、一定の学習やトレーニングは必要で、そうすることで集団精神療法のもつ面白さや醍醐味、つまり「人と人との関係性が織りなすセラピューティックな力」をよりよく認識できるようになるでしょうが、本講座においては、まずは集団精神療法を身近なアプローチとして感じて頂ける時間になることを目指しています。

大会企画 相互支援委員会	13:30~16:00	106教室
定員：30名	参加資格：なし	申込：要

災害とメンタルヘルスに関する相互支援グループ

企画者：安部康代（安田病院）
高富栄（こころのクリニック）
高林健示（東京集団精神療法研究所）
長友敦子（宮城県中央児童相談所）
橋本明宏（慈雲堂病院）
針生江美（東北文化学園大学）
藤澤美穂（岩手医科大学教養教育センター）
藤信子（なし）
山本創（医療法人北仁会 石橋病院）

概要：「災害とメンタルヘルスに関する相互支援グループ」は、災害とメンタルヘルスに関して、自由連想的に対話をする体験グループであり、日本集団精神療法学会相互支援委員会の企画・運営のもと、大会企画ワークショップとして開催する。学会学術大会は毎年3月に開催されることが多く、2011年3月11日に起きた東日本大震災を振り返る節目という側面もある。第43回学術大会は「グループと私」というテーマとなっているが、相互支援グループでは、「災害と私」について、思いを巡らせ語り合う機会としたい。今までに話す場がなかったため自身のなかに残っていた感情をはなしたい、今後被災地支援に行く可能性のある方で災害について聴くことの心備えとしたい、災害について考えることは怖いグループという場で話してみたい方など、被災地支援の経験の有無は問わないので、様々な立場の方の参加を歓迎する。グループの設定 時間：70分×2セッション

大会企画	13:30~16:00	103教室
定員：10名	参加資格：会員限定	申込：要

体験グループⅠ

コンダクター：桜庭拓郎（恵愛会青木病院）
コ・コンダクター：吉野比呂子（昭和女子大学）

概要：会員限定の体験グループです。事前参加申込みが必要です。

一般演題Ⅰ「依存症・トラウマ・PTSD」	13:30~16:00	122教室
定員：なし	参加資格：なし	申込：不要

司会：齋藤英二（築地サイトウクリニック） 田中怜子（なし）

1-1「依存症回復支援におけるリレーション・トーク手法を活用したグループワークの実践」 藤巻加奈子（誠心会神奈川病院）

1-2メンタライゼーションに基づく治療(MBT)の集団療法 ト라우マ記憶の浮上に対する対応 荻本快（相模女子大学）

1-3クレプトマニアを対象としたグループセラピー～Slip (Relapse/Acting out) をめぐって～ 加藤祐介（特定医療法人群馬会 赤城高原ホスピタル）

一般演題Ⅱ「治療構造・治療共同体・技法／チーム」	13:30~16:00	124教室
定員：なし	参加資格：なし	申込：不要

司会：川合裕子（小阪病院デイケアセンター） 徳丸享（立正大学）

1-1次世代を担う中堅スタッフの育成を目的としたリードグループ（互いに失敗を受け入れ合い変化してきたグループ経過） 森智秀（のぞえ総合心療病院）
古賀禎也（のぞえ総合心療病院）
堀川公平（のぞえ総合心療病院）
坂口信貴（のぞえ総合心療病院）

1-2「被災による喪失」からの「再構築」で葛藤する精神科クリニックとデイケアグループコミュニティミーティングから読み解く立て直しに潜む「残酷さ」 坪雄士（医療法人あさだ会 浅田心療クリニック）
浅田護（医療法人あさだ会 浅田心療クリニック）

1-3“変化への不安”を乗り越えるグループ—児童心理治療施設A園におけるスタッフ集団の支え合い—	正木奈那（社会福祉法人風と虹 筑後いずみ園）
1-4グループから見える摂食症患者の心理的特性と求められる治療構造—摂食症に対するメンタライゼーションによる治療（Mentalization-Based Treatment for Eating Disorders: MBT-ED）の視点から—	星野大（特定医療法人群馬会群馬病院） 金井希叶（特定医療法人群馬会群馬病院） 重田理佐（特定医療法人群馬会群馬病院） 林公輔（慶応義塾大学） 西園 マーハ文（明治学院大学）
1-5『Taking the Group Seriously』にひそめて 三つの話題から	柴田応介（こころのホスピタル町田）

自主企画ワークショップⅠ	13:30~16:00	132教室
定員：50名	参加資格：なし	申込：要
からだと集団精神療法2 グループをくからだで聴く>		
企画者：鎌田明日香（加羅堂/札幌市SC） 大橋良枝（京都文教大学） 加藤隆弘（北海道大学大学院医学研究院 神経病態学分野精神医学教室）		
概要：企画者らは、第42回大会において「からだと集団精神療法」WSを実施した。精神分析と脳科学（加藤）、メンタライゼーション（大橋）、身体心理療法（鎌田）における「身体反応」に関する知見や実践を共有し、参加者とともにディスカッションをすることにより、身体を通じた“新しいグループがうまれる”可能性を検討した。 2回目の今回は、さらに具体的に「身体」のありようをいかにグループの中で扱っているのか、もしくは扱うことが可能なのかについて注目してみたい。企画者らの話題提供のあと、参加者とともにグループの中で「からだで聴く」ことをしながら、さまざまな角度からの議論が深まることを期待している。		

自主企画ワークショップⅡ	13:30~16:00	134教室
定員：50名	参加資格：なし	申込：要
性犯罪加害者に対する集団精神療法 ―集団を通して、現代の私たちの心的課題を考える―		
企画者：ジェイムス朋子（京都橘大学） 犬塚貴浩（大阪刑務所） 篠山義郎（加古川刑務所） 田村真二（大阪刑務所） 安部尚子（加古川刑務所） 赤松愛実（加古川刑務所）		
概要：本ワークショップでは、性犯罪加害者を対象とする集団精神療法を取り上げ、加害行為にみられる心的力動と集団過程の治療的意義を検討する。刑事施設における臨床実践を基盤とし、仮想事例とロールプレイを用いた体験的考察を通じて、加害者臨床における集団の機能や力動を参加者とともに探求する。さらに、専門家としての理解を深化・展開させる体験的な場としたい。性犯罪は文化的・社会的文脈を背景に生じる現代的課題であり、集団を媒介とした理解は、加害者臨床のみならず現代社会の中で「自分」を捉える上でも重要である。		

自主企画ワークショップⅢ	13:30~16:00	102教室
定員：50名	参加資格：なし	申込：要
芸術の知による探求 ―様々な文脈からアートベース・リサーチの可能性を捉える―		
企画者：高田由利子（札幌大谷大学） 倉石聡子（アップコンセプト・スタジオ） 尾上明代（立命館大学） 神宮京子（特定医療法人群馬会群馬病院） 伊東留美（南山大学）		
概要：アートベース・リサーチ（ABR）は、芸術的表現を研究に活用する方法であり、クリエイティブ・アーツセラピー（CAT）の実践を基に発展してきた経緯がある。ABRは単なる研究手法にとどまらず、臨床・教育・スーパービジョン・自己理解の諸場面で意義を持ち得る。以下のモダリティ（アート、ダンス、ドラマ、ミュージック）においてABRを活用するとどのような問いや発見が生まれるのか共有し、創造的探究の新たな可能性を見出したい。		

自主企画ワークショップⅣ	13:30~16:00	104教室
定員：25名	参加資格：なし	申込：要
体験から学ぶSSTワークショップ		

企画者：佐藤幸江（東京海上日動メディカルサービス株式会社） 金山正恵（医療法人ディーブインテンション リンクスメンタルクリニック）
概要：SSTは、1970年代にLiebermanらによって開発され、80年代に日本に紹介された治療パッケージです。行動療法に基本をおきながらも、サイコドラマの要素も組み込まれ、「希望志向」「リカバリー」などメンバー個々を大切する哲学・概念も含まれています。SST＝マニュアル的という印象をもつ方も多いかもしれませんが、実際には個別性を重視しつつ、グループのよさを十分に活用する面も持ち合わせたものです。本ワークショップでは、SSTに必要な事前面接、主たる技法である基本訓練モデルと問題解決技法の実際を参加者のみなさまに体験・観察していただくことを目的としています。理論や技法についてのミニレクチャーもありますので、SSTの体験の有無にかかわらず、多くの方にご参加いただければと思っています。「目に見える、動く集団精神療法」（西園・2023）とも呼ばれるSSTをぜひ一緒に体験しましょう。

自主企画ワークショップⅤ	13:30~16:00	105教室
定員：25名	参加資格：なし	申込：要
集団精神療法における権威について考える		
企画者：岡島美朗（自治医科大学附属さいたま医療センター） 梶本浩史（東京都立学校スクールカウンセラー） 加藤隆弘（北海道大学精神科）		
概要：グループを運営するにあたって、参加者がみな平等で、公平に権利が与えられるのは基本的に、重要なことである。しかし、参加者が誰一人として同じ人間でない以上、さまざまな能力に優劣があったり、社会的な立場によって対等とはみなしにくい関係がグループに入り込んでしまったりすることは、避けられないことがある。そうした要素が多くなると、グループでは思ったことを自由に話すことができなくなったり、ある人の発言が他のメンバーに大きな影響を与えてしまったりする。その一方で、そうした要素がグループのなかの関係を安定させ、心理的な安全感を与える場合もあるように思われる。このワークショップではそうした要素を総称して権威と呼び、グループの中で権威がどのように体験されているかを話し合うことを通して、権威をどう考え、それにどう対処したらいいかを考えたい。		

自主企画ワークショップⅥ	13:30~16:00	107教室
定員：25名	参加資格：なし	申込：要
多職種チームで治療構造を作るときにグループの視点をどう活かすか		
企画者：宮城崇史（京都桂病院精神科/児童心理治療施設ももの木学園） 片岡圭美（医療法人社団 綾瀬病院 作業療法室） 加藤祐介（特定医療法人群馬会 赤城高原ホスピタル） 田辺等（北海道精神保健協会、北仁会旭山病院）		
概要：多職種チームで治療方針を共有し、治療構造をともに作り上げることは、実は容易ではありません。チーム内の対立、分裂が起こり、スタッフが疲弊するだけでなく、治療が停滞することもあります。このような時、思考は硬直化し、感情は語られず、お互いを信じられないといった状況も生じているかもしれません。今回は、メンタライゼーションに基づいた治療で行われているThinking Together（協同思考法）という方法を参考に、冒頭にその方法を紹介した後、話題提供者から実践を報告してもらいます。それを聞いて他の参加者が話題提供者の思考・感情・願望について自由に想像を巡らせ、そのやりとりを話題提供者が離れたところから観察することで、話題提供者が自分自身のこころの動きについて考えたり、治療対象としている方々について想像を巡らせたりすることを助け、現状の課題を解決する手がかりにつながることを期待しています。		

リフレクショングループ	16:15~16:45	各教室
定員：なし	参加資格：なし	申込：要
リフレクショングループ		
各グループのコンダクター： 安部 康代・宮城 崇史/梶本 浩史・篠崎 絵理/月江 ゆかり・菅 武史/橋本 明宏・川合 裕子/長谷川 麻弓・埜 雄士/藤澤 希美・野村 学/二之宮 正人・藤巻 加奈子/黒江 美穂子・福澤 宏之/大橋 良枝・石川 与志也/片岡 圭美・佐藤 裕宗/水田 博子・石川 健太/藤澤 美穂・山本 創		
概要：大会での体験をコミュニティ・ミーティングよりも少人数（会場等の都合から1グループ30人程度になる予定です）で振り返るための場です。コンダクター、コ・コンダクターは基本的に運営委員が担いますが（全員ではありません）、様々な職種や職域などの組み合わせを考慮して何人か会員にもお願いしました。事前申し込み制ですが、当日参加の方も受け付けます。初日の午後と2日目の午後に開催し、2日間連続での参加をお勧めしますが（メンバーは固定です）、どちらか1日しか参加できない方の参加も受け付けます。		

イブニングセッション 言語	16:55~17:40	121教室
定員：なし	参加資格：なし	申込：不要
イブニングセッション 言語		

<p>コンダクター 岩崎壮登（特定医療法人群馬会群馬病院） 古賀 恵理子（大阪経済大学人間科学部） 田辺等（北仁会旭山病院）</p>	
<p>概要：大会第一日目夕方の大グループは事前予約制ではありませんので、蓋を開けてみないと何人が集まるのかわかりませんが、おそらく普段よりは大きな声を出さないとグループ全体に声が届かないくらいのサイズでしょう。椅子がびっしりと敷き詰められています。マイクは回ってきませんのでシャウトして下さい！ 予め決められたテーマはありません。大きな渦の中に放り込まれたような気持ちになるかもしれませんし、落ち着かない混乱した感じを抱くかもしれません。自分が何かを声にすることにためらいや恐れが生じて、発言している人の陰に隠れていたい気持ちになるかもしれません。社会、そしてJAGPを含むさまざまな集団・組織に属する一人一人が、大グループの渦の中に身を置いて自分の心に目を向け、かつ他の人の声を聴くことで、自分がどんなことに刺激されて、どんな気持ちが生じているかを味わうことができるでしょう。可能であればそれを少しでも声にしてみてください。グループ全体にかかわる声かもしれません。自分の安全領域から一歩踏み出してリスクをとることができる機会です。</p>	

イブニングセッション	アクション	16:55~17:40	133教室
	定員：なし	参加資格：なし	申込：不要

イブニングセッション アクション	
<p>ファシリテーター 神宮 京子（特定医療法人群馬会群馬病院） 伊東瑠美（南山大学） 尾上明代（立命館大学） 倉石聡子（アップコンセプト・スタジオ） 高田由利子（札幌大谷大学）</p>	
<p>概要：アートの様々を通して体験する大グループです。クリエイティブ・アーツセラピー（アートセラピー、ダンス／ムーブメントセラピー、ドラマセラピー、ミュージックセラピー等の総称で、以下CATと記す）のエッセンスを活用し、言葉になりきらない曖昧な思いや感覚を大グループの中で具現化しようとする試みです。言語中心のグループで少々固まった身体や頭をほぐしたいという方々、五感を巡るボトムアップな体験を共にしてみませんか。ひと味違った感情の流れを体感し、ふとした心の隙間を発見するーそんなひと時を皆さんと創造していきたいと願っています。ファシリテーターはCATのセラピストたちですが、何人いらっしゃるかわからない大グループというのは私たちにとってもチャレンジです。ダンス、ドラマ、ミュージック、アートの何をどのように取り入れるかは当日のお楽しみに！</p>	

CGSミーティング	17:50~18:35	121教室
-----------	-------------	-------

第2日目 3月22日（日）

モーニングセッション 言語		9:15~10:00	121教室
	定員：なし	参加資格：なし	申込：不要
モーニングセッション 言語			
コンダクター 関百合（クボタ心理福祉研究所）			
コ・コンダクター 鈴木純一（東京集団精神療法研究所）			
<p>概要：モーニングセッションはグループアナリシスによる大グループのセッションです。グループアナリシスでは大グループは社会や共同体の縮図であると考えます。様々な声が社会のなかのひとりひとりを代表します。大きな声、小さな声、聴きとりにくい声、聴きとりやすい声、様々な声がグループの中で入り混じることが私たちの社会や共同体、この日本集団精神療法学会の現在を表していると考えます。話題は一貫性がないかもしれません。様々な思いの発露が一見とりとめもなく続くかもしれません。でもそこに起こっているプロセスは無意識で繋がっています。そのプロセスをどうぞ味わってください。大会二日目の朝9時15分から10時までの45分間行います。コンダクターは鈴木純一と関百合が務めます。テーマはありません。どうぞ思いついたこと、感じたことをお話しください。</p>			

モーニングセッション アクション		9:15~10:00	133教室
	定員：なし	参加資格：なし	申込：不要
モーニングセッション アクション			
ディレクター 藤堂信枝（白峰クリニック）			
スタッフ 富田俊之（白峰クリニック）			
長谷川真紀（白峰クリニック）			
藤堂宗継（山崎病院）			
<p>概要：二日目朝のグループは、アクションを通して自分自身や集団精神療法についての思いを振り返る時間にしたと思います。サイコドラマを創始したJ.L.モレノは、「サイコドラマで内なるものを行動に示すことで、治療者のみならず、示した患者自身が自分を評価する機会を与える」と述べています。つまり、参加者自身の思いや気持ちを言葉だけでなく、動作や行動といった様々な身体活動を通して表現することで、自分自身が意識していなかった「内なるもの」に気づくと同時に、他者もそれを共有し、体験する機会になります。メインプログラム前に行われるモーニングセッションは、まさにサイコドラマでのウォーミングアップの時間と言えます。私たちはどのような思いや気持ちで、大会に参加しているのでしょうか。自分にとっての集団精神療法とはなんでしょうか？この大会で何をgetしたいのでしょうか？事前申し込みは必要ありません。集団精神療法に馴染んでいる方、そうでない方、またアクションのグループが苦手な方も、互いに交流しながら様々な思いをアクションを使って表現してみましょう。</p>			

大会特別企画		10:15~12:45	121教室
	定員：なし	参加資格：なし	申込：不要
シンポジウムⅡ（グループ×エビデンス）			
司会：松本佳子（日本赤十字看護大学さいたま看護学部） 衛藤暢明（福岡大学医学部精神医学教室）			
シンポジスト：新村秀人（大正大学臨床心理学部）			
藤澤大介（国立がん研究センターがん対策研究所）			
加藤隆弘（北海道大学精神医学教室）			
<p>概要：これまで集団精神療法学会において、エビデンスの問題が十分に検討される機会は多くはありませんでした。しかし医療全般でエビデンスに基づく実践が求められるなか、集団精神療法の有効性をいかに示し、研究と臨床をどう結びつけていくかは喫緊の課題です。本シンポジウムでは、外部からのシンポジストをお招きすることで、学会内だけでは得られにくい新しい視点を取り入れ、議論の幅を広げたいと考えています。</p>			

大会企画 事例検討		10:15~12:45	102教室
	定員：30名	参加資格：会員限定	申込：要
特別支援学校におけるグループ ～高等部（分教室）のおしゃべり広場～			
発表者：川上桜子（神奈川県立特別支援学校）			
司会：加藤祐介（特定医療法人群馬会 赤城高原ホスピタル）			
スーパーバイザー：高林健示（東京集団精神療法研究所/クボタ心理福祉研究所）			
<p>概要：今回は、特別支援学校の昼休みに実践している“昼休みおしゃべり広場”というグループについて報告したい。「頑張って伝えてもわかってもらえなかった」「いつの間にかノケモノにされた」そんな経験を重ね、自分に対して肯定的なイメージをもてない子どもたちがたくさんいる特別支援学校で、対等な仲間と安心して過ごせる場所を経験して欲しいという思いから立ち上げた高校生年代対象のグループである。言葉だけだと展開についていけなかったり、思いを伝えるのが難しかったりする子どもも少なくないため、グループの構造には工夫をした。グループの枠組みの在り方やグループの中で起きていることなどを、当日参加者とともに検討したい。</p>			

大会企画		10:15~12:45	133教室
	定員：なし	参加資格：なし	申込：不要
こうえん ―出入り自由の体験グループ―			
野中 稔 (MBK Wellness 株式会社) 藤澤 希美 (横浜市立大学 医学部看護学科) 佐藤 裕宗 (医療法人社団草思会錦糸町就労支援センター)			
概要：「こうえん」は、出入り自由の体験グループです。参加資格制限がないため、誰でも参加ができます。少しだけ入って出てみたり、プログラムの合間に参加することも可能です。グループに興味がある方はぜひ、ご参加ください。			

大会企画 倫理委員会		10:15~12:45	101教室
	定員：30名	参加資格：なし	申込：要
「改訂版「倫理綱領」をどう生かすか ―“私たちの倫理”の明日を考える―			
企画者：菊地寿奈美 (京都スクールカウンセラー) 武井麻子 (Office-Asako、京都看護大学) 池田望 (札幌医科大学保健医療学部 作業療法学第二講座) 小川悠介 (未定) 白柿綾 (聖カタリナ大学) 松井朋美 (特定医療法人群馬会群馬病院) 加藤祐介 (特定医療法人群馬会 赤城高原ホスピタル) 嶋田博之 (東日本少年矯正医療・教育センター) 神宮京子 (特定医療法人群馬会群馬病院) 埴雄士 (浅田心療クリニック) 高橋裕子 (大阪樟蔭女子大学・大学院)			
概要：2026年、本学会の倫理綱領が20年ぶりに改訂されることになった。改訂作業の過程でさまざまな資料を渉猟し、他学会の研究者の方々からも助言を受ける中で、倫理は自分たちのコミュニティが目指すもの、大事にしたいものを中心に自律的に作るものであるという考え方に触れたことをきっかけに、“私たち”の倫理綱領を作ろうという方向性が生まれ、それを形にする作業をしてきた。最終段階で、改訂版の草案をもとに会員にパブリックコメントを求め、改訂版倫理綱領が完成した。本ワークショップでは、パブリックコメントについて紹介するとともに、次なる課題である実践倫理ガイドラインの策定に向けて、会員の日々の実践や研究活動の土台として“私たち”の倫理綱領をどのように生かしていけるかについて意見を交換し、考えていく機会としたい。改訂版倫理綱領に込められた「倫理は常に自身に、そして互いに問い返していくもの」という考えを具現化する第一歩でもある。			

大会企画		10:15~12:45	103
	定員：10名	参加資格：なし	申込：要
初心者グループ			
コンダクター：高富栄 (ココころのクリニック)			
コ・コンダクター：佐藤幸江 (東京海上日動メディカルサービス株式会社)			
概要：初心者の方を対象にした、体験グループです。事前参加申込みが必要です。			

一般演題Ⅲ「児童・思春期・発達支援／教育領域」		10:15~12:45	122教室
	定員：なし	参加資格：なし	申込：不要
司会：渡部京太 (特定医療法人群馬会群馬病院) 山野上典子 (山口県立総合医療センター)			
1-1児童心理治療施設における治療共同体の関係性とスタッフの感情反応 Menninger Clinicの逆転移研究との比較から	菊池清美 (社会福祉法人風と虹 筑後いずみ園)		
1-2適応指導教室スタッフのケースカンファレンス	野島一彦 (九州大学名誉教授)		
1-3児童心理治療施設の高校生の自立における課題と必要な支援	浦岡祐奈 (社会福祉法人風と虹 筑後いずみ園)		

一般演題Ⅳ「統合失調症・長期入院治療／精神障害者支援」		10:15~12:45	124教室
	定員：なし	参加資格：なし	申込：不要
司会：相田信男 (特定医療法人群馬会群馬病院) 式守晴子 (NPO法人高次脳機能障害サポートネットしずおか)			
1-1統合失調症者において共同作業所からの卒業への焦りが止み「卒業の夢」が生じる時	水上雅敏 (山口心理相談室)		

1-2グループ療法的内的対象の発達とそれを阻むもの（5） キャッスル病院のコミュニティ・ミーティングの経験がもたらしたもの	浅田 護（浅田心療クリニック）
1-3グループの中で培われたもの 長期入院の女性グループと作業療法	片岡圭美（医療法人社団 綾瀬病院 作業療法室）

自主企画ワークショップⅦ	10:15~12:45	132教室
定員：100名	参加資格：なし	申込：要
グループで職員を支援する 児童福祉施設でのメンタライジング、治療共同体、ワークディスカッション		
企画者：西村馨（国際基督教大学） 宮城崇史（京都桂病院精神科、児童心理治療施設ももの木学園） 山村真（くわな心理相談室） 大橋良枝（京都文教大学）		
概要：児童福祉施設における職員支援・研修のためのグループを紹介する。メンタライジングの考えに基づく「協同思考法（Thinking Together）」、タビストッククリニックで発展してきた「ワークディスカッション（Work Discussion）」、そして治療共同体の考えに基づいて独自に運営されているグループである。それらは、職員個人を支援するものであると同時に、組織の課題を浮き上がらせ、活性化し、変革していく可能性を持ったものでもある。本ワークショップでは、それらのグループ実践の報告に続いて、AMBIT（メンタライゼーションに基づく適応的統合治療）の観点から組織運営にかかわる議論を展開していきたい。児童福祉施設独自の課題を深く議論していくことも無論重要であるが、他領域の観点から議論が広がることも非常に有益であると考えられる。さまざまな方のご参加を期待する。		

自主企画ワークショップⅧ	10:15~12:45	134教室
定員：25名	参加資格：会員限定	申込：要
サイコドラマ入門（3）サイコドラマをほとんど経験した事のない集団精神療法家のために		
企画者：野本益代（札幌市スクールカウンセラー） 前田潤（室蘭工業大学、札幌サイコドラマ研究会）		
概要：サイコドラマは集団療法と個人療法の両面を備えたアクションを伴う集団精神療法である。サイコドラマ体験の機会を増やすため、（ほとんど）経験した事が無い人を対象に自主ワークショップを企画し、この度は3回目となる。集団の中で、自分自身の課題と向き合い、集団に支えられた経験を通し、自発性の回復を少しずつ体験できる事が、サイコドラマの大きな魅力である。 今回、サイコドラマの流れの基本を大切に ①ウォーミングアップ ②ドラマ ③シェアリング を体験する事、サイコドラマの技法である役割交換、ダブル、ミラーを体験できるように構成したい。ご参加をぜひお待ちしております。		

自主企画ワークショップⅨ	10:15~12:45	104教室
定員：50名	参加資格：なし	申込：要
「学校〇グループ」と私——シナリオロールプレイによる体験的学び——		
企画者：梶本浩史（東京都公立学校スクールカウンセラー） 大橋良枝（京都文教大学） 高玲児（医療法人 コこころのクリニック） 菅武史（広島市SC） 滝谷寿美（桜の聖母短期大学、福島県教育センター） 谷麻衣子（愛知県医療療育総合センター中央病院） 長尾直子（医療法人 コこころのクリニック） 廣瀬真理（東京都公立学校スクールカウンセラー） 松尾真規子（北里大学看護学部）		
概要：本ワークショップ（以下、WS）の目的は学校教育や周辺の領域における実践を集団精神療法の視点に基づいて相互学習することです。参加するために特に知識や経験は必要ありません。関心があればどなたでも参加できます。本WSの進め方は、参加者が体験的に学べるように、シナリオロールプレイを前半に行い、後半は振り返る作業（レビュー）をするためにグループを行います。シナリオロールプレイでは、本大会テーマ「グループと私」も踏まえ、学校教育に携わる方の多くが経験する異動の体験について検討できる架空のシナリオを用意する予定です。学校教育の現場に限らず、そこに関わる様々なグループと、当日参加してくださる個々の「私」について集団精神療法的な視点から問い直し理解を深める機会になることを期待しています。		

自主企画ワークショップⅩ	10:15~12:45	106教室
定員：25名	参加資格：なし	申込：要
メンタライジングに基づく里親のための支援グループ「リフレクティブ・フォスターリング・プログラム」を体験し、考える		

企画者：木村能成（新潟医療福祉大学） 那須里絵（早稲田大学 総合研究機構）
概要：現在、日本では里親養育が推進されている一方、養育の継続が難しくなるといった課題もある。英国の「リフレクティブ・フォスターリング・プログラム（RFP）」は、里親が自分自身と子どもの気持ちを理解し、メンタライズして関わる力（省察機能）を高める全10回の心理教育グループで、里親のストレス低下などの効果が示されている。筆者らは、日本において予備的な実践を行っている。本WSでは、RFPについて紹介するとともに、実践の状況を報告し、参加者とディスカッションを行う。

自主企画ワークショップXI	10:15~12:45	107教室
定員：25名	参加資格：なし	申込：要

小集団精神療法を基礎から学ぶ会 力動的管理をめぐる
企画者：塚瀬将之（成田心理臨床オフィス） 加本有希（立教大学教育研究コーディネーター） 塚瀬佳澄美（成田心理臨床オフィス） 関百合（クボタ心理福祉研究所）
概要：本ワークショップは毎年、集団精神療法における基礎的なテーマを1つ取り上げ、体験的、理論的に理解を深めることを行っています。今回は、関百合先生をお招きし、力動的管理について体験的、理論的に理解を深めていきたいと考えています。集団精神療法はバウンダリーの設定から始まり、グループが始まると、バウンダリーをめぐってさまざまな事態に遭遇することになります。それをいかに扱っていくかが力動的管理の重要な側面です。すなわち、グループの枠組みを土台に、その時その場で起こる様々な事態に対して力動的な解釈を柔軟に取り入れ、グループの発展を助けることが力動的管理の役割であると言えます。これからグループを始めていきたい方、グループを始めてはみたもののどう考えたらいいかかわからない、あるいはグループを始めてから様々な困難に遭遇している方などなど、さまざまな方々に有益な示唆を与えるワークショップとなったらと思っています。

リフレクショングループ	13:45~14:15	各教室
定員：なし	参加資格：なし	申込：要

リフレクショングループ
各グループのコンダクター： 安部 康代・宮城 崇史/梶本 浩史・篠崎 絵理/月江 ゆかり・菅 武史/橋本 明宏・川合 裕子/長谷川 麻弓・埜 雄士/藤澤 希美・野村 学/二之宮 正人・藤巻 加奈子/黒江 美穂子・福澤 宏之/大橋 良枝・石川 与志也/片岡 圭美・佐藤 裕宗/水田 博子・石川 健太/藤澤 美穂・山本 創

コミュニティミーティング	14:30~16:30	121教室
定員：なし	参加資格：なし	申込：不要

コミュニティミーティング
コンダクター 林公輔（慶應義塾大学環境情報学部）
コ・コンダクター 高橋馨（杉並区児童相談所設置準備課） 片上 絵梨子（共立女子大学） ト部 裕介（関東中央病院） 岡田 靖子（訪問看護ステーションてんとうむし） 野中 総（MBK Wellness 株式会社）

運営委員会

大会長：林 公輔

事務局長：高橋 馨 事務局長補佐：片上 絵梨子

事務局：卜部 裕介 岡田 靖子 野中 稔

運営委員：安部 康代 岡崎 翼 片岡 圭美 古河 知子 佐藤 裕宗 関 百合 月江 ゆかり 橋本 明宏
長谷川 麻弓 針生 江美 藤澤 希美 藤澤 美穂 松本 佳子 水田 博子 渡辺 千聖

大会事務局

〒252-0882 神奈川県藤沢市遠藤5322 慶應義塾大学環境情報学部 林公輔研究室内

Email: 43rd.tokyo@jagp1983.com

https://jagp1983.com/?page_id=24117

学会事務局

〒160-0011 東京都新宿区若葉2-5-16 向井ビル3階 (株) ヒューマンリサーチ内

E-mail: jimukyoku@jagp1983.com

Tel: 03-3358-4001 Fax: 03-3358-4002

名義後援

慶應義塾大学総合政策学部

慶應義塾大学環境情報学部

東京都医師会

東京都看護協会

東京公認心理師協会

東京精神科病院協会

東京精神神経科診療所協会

東京都作業療法士会

日本学生相談学会

日本クリエイティブ・アーツセラピー学会

日本公認心理師協会

日本作業療法士協会

日本心理劇学会

日本精神科病院協会

日本精神神経学会

日本精神神経科診療所協会

日本精神分析学会

日本精神保健看護学会

日本臨床心理士会

今大会は大会ポスターデザインの他、プログラム集において下記の方のご協力を頂きました。『FACE』は「グループと私」における「私」についての志向を、『排他』はグループと私の関係性への志向を表現しているものと捉え、感謝の意を込めて掲載させていただきます。

special thanks to 亀井 理史 (慶應義塾大学環境情報学部3年/写真作家)

受賞歴

・第28回日仏現代国際美術展 入選 ・第72回二科会写真部展 フォトコン賞

・VIEPA2024 (ウィーン国際写真アワード) 学生部門佳作 ・第23回JPA (日本写真作家協会) 展 銀賞

「グループと私」という大会テーマと聞いた時、
私の中に浮かんだのは、「一緒にいるのに、どこかひとり」という感覚でした。

集団にいるときの曖昧さや、そこで揺れる「私」の輪郭。

その実感を、表紙と裏表紙に分けて表現しました。

複数人で歩む山道には、関係性の心もとなさや優しさを、ひとりきりで進む舗装された道には、
孤独や自己と向き合う気配を込めました。色んな解釈をしてみてください。(亀井理史)



写真・編集
亀井理史